



「熊本県熊本地方を 震源とする地震」

日整災害対策本部の対応報告

平成28年4月14日(木)、午後9時26分発生 of 「熊本地震災害」で、被災された方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

さて、今回の地震について、公益社団法人日本柔道整復師会(以下、日整)は、4月14日午後9時36分、「平成28年熊本地震災害対策本部」(以下、本部)を立ち上げました。

また、本部は、被災県との連絡体制を、九州ブロック会経由で構築し、この情報連絡を綿密に実施し、被災地情報を全国に配信しました。そして被災現地では、九州ブロック会各県による手厚い支援活動が行われました。

更に、本部においては、全DJATメンバーに「待機」を指示するとともに、都道府県災害対策委員、全DJATメンバー、都道府県柔道整復師会会長、日整理事等に、逐次、情報提供を行いました。詳細なDJAT支援体制をも早急に構築し、支援物資の確保を行いました。また被災会員のための「災害見舞金」「支援金」については、積極的な対応を実施し、6月1日、当本部を解散いたしました。この間の対応状況は以下のとおりです。



1. 発生状況等

(1) 地震の概要

① 4月14日21時26分に発生した地震

震源地(震源の深さ)及び地震の規模

- ・場所: 熊本県熊本地方(北緯32度44.5分、東経130度48.5分)、深さ約11km(暫定値)
- ・規模: マグニチュード6.5(暫定値) 震度7 熊本県益城町

② 4月16日1時25分に発生した地震

震源地(震源の深さ)及び地震の規模

- ・場所: 熊本県熊本地方(北緯32度45.2分、東経130度45.7分)、深さ約12km(暫定値)
- ・規模: マグニチュード7.3(暫定値) 震度7 熊本県益城町、西原村

③ 平成28年6月16日9時現在、震度1以上を観測する地震が1,751回発生。

(2) 人的・物的被害の状況

- ① 人的被害(4月14日からの累計)(消防庁6月16日14:00現在、熊本県6月16日13:30現在)
全体: 単位=人()内は熊本県の再掲
ア、死亡49(49) イ、重症347(335)
ウ、軽傷1,318(1,263)

- (3) 建物被害(消防庁情報: 6月16日14:00現在、熊本県6月16日13:30現在)
全体: 単位=棟()内は熊本県の再掲
ア、全壊7,969(7,693) 半壊23,094(22,982) 一部破損113,428(109,892)

(4) 避難所の状況【熊本県】

- ・避難所数123ヶ所 避難者数6,259名(6月16日13:30現在)
- ・最大避難所数855ヶ所 避難者数183,882名(4月17日9:30時点)

(5) 会員状況

- ① 熊本県: 被災し、避難所等への避難会員・家族196名(4/16現在、最大)

- ② 大分県: 被災し、避難所等への避難会員・家族2名

2. 本部の対応概要

H28.4.14(木)

- 21:30 日整会館に豊嶋良一緊急対策室長・迫田緊急対策室員待機

- 21:36 緊急対策室長が工藤鉄男本部長の指示を本部に連絡
「平成28年熊本地震対策本部」立上げについて、全本部員・室員に連絡、日整会館で待機

H28.4.15(金)

- 8:58 熊本県の松村圭一郎会長から本部に連絡
・熊本県会員の状況、熊本県防災本部への「待機中」登録など
- 9:00 本部長から対策室長への指示事項
1. 今後、災害状況等を、全国会長・事務所・全DJATメンバー・日整全理事・全災害対策委員に報告すること
2. 日整のDJAT支援については、人的対応は自己責任で行うこと、また、物的対応、費用対応については、今後検討の予定であること
3. 情報収集・伝達及びDJATの対応等は至急検討し、報告の予定
- 9:30 全国会長、日整全理事、全DJAT隊員、全災害対策委員(以下、全国災害関係者)宛 経過報告1 配信
- 10:00 DJAT相馬隊員(熊本)から本部に連絡
・会員142名中132名と連絡取れる(10名留守電中)など
- 11:00 全国災害関係者宛 経過報告2 配信
- 13:00 DJAT隈本・平野隊員(佐賀)、益城町総合

体育館で救護活動開始

15:30 松村会長から本部あて連絡

- ・熊本県災害対策本部から、公益社団法人熊本県柔道整復師会への出動要請を受けて、DMAT本部日赤熊本県支部のご協力を得て【接骨・整骨災害医療ブース】を益城町総合体育館内に設置、開設 4名（熊本県2名、佐賀県2名）の会員で対応開始

16:30 全国災害関係者宛 経過報告3 配信

H28.4.16(土)

6:30 松村会長から本部あて連絡

- ・本日数回発生地震の震度6強による被害が甚大、また、広範囲の様相。再度、熊本県会員の被害状況の確認を始める
- ・支援活動のため熊本県柔道整復師会に集合の会員は、安否確認等のため、一旦帰宅

6:55 大分県加藤和信会長から連絡

- ・震度6強が大分県中部で発生、大分県会員の情報収集を開始した

7:00 対策室長から指示

- ・熊本県会員の再度の情報収集、大分県会員の新たな情報収集を行い、至急対応決定のこと

7:30 本部長から指示

- ・松岡保副本部長（福岡県会長）、松村会長、加藤会長宛、九州ブロック会の支援体制の下、情報収集・支援活動を実施すること

9:00 日整事務局参集

10:40 本部長から全DJATメンバーに「待機」指示

12:15 松岡副本部長、松村会長、佐賀県の富永敬二会長で協議

- ・現在熊本県【接骨・整骨災害医療ブース】で支援中の佐賀県2名（DJAT限本、平野隊員）は、徹夜業務、道路状況、余震等を考慮し、帰宅とする

12:16 本部長、了解

14:35 加藤会長から日整本部あて被害状況報告

- ・会員169名中168名の無事を確認（1名は避難所へ移動の様相）など

14:55 松村会長から本部あて連絡

- ・本日、14:55現在、唯一無事な道が、今後の降雨と大風で、遮断され、孤立する可能性あり。ついては、安全確保と自己完結遂行のため、降雨前の現時点をもって、支援避難所から、一旦撤収、九州各県の待機を依頼

15:00 他 全国災害宛 経過報告4、5 配信

H28.4.18(月)～4.22(金)

○公益社団法人熊本県柔道整復師会の状況
会員の安否確認、救護活動の実施

○公益社団法人大分県柔道整復師会の状況
会員による救護活動無し

○本部指示等について

- ・「待機」指示継続、「DJAT派遣登録・物資等確保の準備体制登録」につき緊急依頼（H28.4.21現在 27都道府県で27名DJAT派遣登録、物資等確保済みの登録）

- ・松岡会長から日整本部あて連絡

熊本県内のボランティア活動の開始は、現在実施されている人命救助の後となる

- ・現時点の「DJAT派遣登録」の具体的な隊員派遣は、松岡会長が行う

- ・当該支援の実施内容は、原則「松岡会長（九州ブロック会取りまとめ）」に一元化し、本部と協議し、実施する

- ・熊本地震関係、理事会報告（4/22）

- ・「日整支援金」実施の決定（4/22理事会）

- ・都道府県柔道整復師会で「義援金箱」の設置がなされる

■九州ブロック「熊本地震救護ボランティア対応」

- ・九州ブロック会対策本部は、公益社団法人福岡県柔道整復師会とする

- ・熊本県対策本部は、「かえで整骨院」：担当、相馬会員とする

- ・熊本県内の避難所11ヶ所の【接骨・整骨災害医療ブース】の活動等を指示

- ・対応スケジュールの策定、実施（4/23～5/8）

- ・全国災害関係者宛他 経過報告6 配信（4/18）
経過報告7 配信（4/22）

H28.5.11(水)

18:00 松岡会長から部長連絡会議での活動状況報告

1. 会員被害状況

<熊本県> 現在精査中

※参考：4/14、16の震度7の地震後

営業出来た施術所 46ヶ所 営業不能な施術所95ヶ所（4/17現在）

営業できた施術所 136ヶ所 営業不能な施術所 5ヶ所（4/28現在）

<大分県> 被害無し

2. 熊本県内災害医療救護活動実績について

H28.4.23～H28.5.8

福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県柔道整復師会が実施

14避難所 派遣会員数197名（延べ員数）救護者数1,918名

H28.5.17(火)、18(水)

日整本部の現地視察

場 所：熊本県・大分県被災地

メンバー：工藤本部長 松岡副本部長 豊嶋緊急対策室長

H28.5.29(日)

公益社団法人熊本県柔道整復師会は、熊本県内唯一継続中であった嘉島町民体育館での救護活動を、5月29日をもって撤収

H28.6.1(水)

14:00 日整総務部会開催

- ・本部長 平成28年6月1日をもって「平成28年熊本地震災害対策本部」の解散を指示

- ・DJAT隊員「待機命令」解除

H28.6.26(日)

平成28年日整総会「日整支援金の取扱いについて」

- ・「基金」を設置し、災害救助支援に活用することを決定

熊 本 地 震

平成28年熊本地震対応報告

広報員 岡松 潤

はじめに今回の熊本地震におきましては、工藤鉄男会長をはじめとする日本柔道整復師会、全国の社団法人柔道整復師会ならびに会員の皆様方より物資支援、お見舞い、激励のお言葉を賜り、この場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。また、救護活動に参加していただきました九州各県の会員の皆様につきましては、余震が続く中、身の危険・不安を抱えながらも活動していただき、大変ありがたく存じます。

前震4月14日(木)21時26分ころ、本震4月16日(土)1時25分ころ、2度にわたる震度7の地震が熊本の大地を揺るがし、熊本の景色・熊本県民の生活を一変させた。

当会は、東日本大震災後の平成24年から熊本県と「大規模災害時における災害支援活動に関する協定書」を締結している。日整が勧めたJIMTEFにも毎年数名を派遣。そこで研修を受けた2名を災害医療

担当理事とし、4年続けて災害医療研修会を年1回実施してきた。今年も前震発生の約1ヶ月前の3月13日(日)に災害医療研修会を行ったばかりだった。

今までの研修会のおかげで、災害医療担当理事2名を中心とした指揮命令系統が明確化されていたため、前震後の4月15日(金)、熊本県からの救護要請後、その日のうちに救護活動に参加できた。災害初期段階から現場に入れたことは、その後の活動を振り返ったとき、人脈を含め大きな財産となった。

また、昨年からLINEにて熊本県柔道整復師会のグループを編成していたので、対策本部の早期立ち上げ、会員の安否確認、連絡手段として大変有効であった。ただ、全会員が登録していないので、その点は今後の課題である。

今回、当会の救護活動方針として、会員の大多数が被災者であることから、救護活動参加は会の強制ではなく、あくまでも会員の自主的な意思に基づくものとした。4月15日(金)、県から要請のあった益城総合体育館での救護活動開始を皮切りに、5月29日(日)までの完全撤収まで、九州各県会員の皆様の応援もお借りしながら、県内73ヶ所・5,417人を、延べ641名で救護活動を行った。

活動初期時には、急性外傷の負傷者も見られたが、日が経つにつれ廃用性疾患や既往歴のある疾患への処置へと変化していった。また、今回の地震後は車



南阿蘇村



救護活動

中泊の避難者も多く、可能な範囲でエコノミークラス症候群予防の対応も実施した。

「想定外」だった。この言葉を使わなくていいように、撤収時期を含め今回の活動を検証し、その教

訓を今後に生かせるよう対策を練りたい。そして、それを内外に発信していくことが、経験した者・被災地の務めだと考える。

(公社)熊本県柔道整復師会会員 **森松大一郎** (熊本市在住)

平成28年4月14日、16日ともに最大震度7を記録した熊本地震。まさか2度も大地震がくるとは予想していませんでした。未だ余震は収まらず、6月10日現在で1,700回を超えています。もう慣れたと言いたいところですが、自院前で大型車が通るときの弱い揺れでも敏感に反応してしまいます。

14日の地震発生時は当院の施術を終えてから、外出先の店内でドンと突き上げるような揺れの後、ゆっさゆっさと横揺れがしばらく続きました。時間にして1分弱、体感では5分以上かと思えるほどでした。

“避難しなければ！”という思いより、今まで体感したことのない強い地震にあっけにとられてしまいました。我に返ると店内は騒然となっており、みんな一斉に外へ避難しました。外へ出ると、同じように建物から出てきた人たちで街は溢れかえっており、ヒビの入った建物、盛り上がった通路のタイル、崩れたブロックが目に見え込んできました。

家族へ電話するも一向に繋がらず、不安を抱えたままタクシーに飛び乗り、自宅へ向かいました。揺れる車内で頭が回らず、運転手さんとの会話も全く覚えていません。

幸い、自宅や家族に被害はなくホッとしましたが、強い余震になかなか寝付くことはできませんでした。

心身の疲れがとれぬまま寝付いた4月16日未明、再び最大震度7の地震が発生しました。慌てて飛び起き2階の寝室から両親とともにバタバタと外へ逃げ出し、津波発生の情報に翻弄されるまま、高台に向かい車を走らせました。近隣の道路は交通渋滞が起きていたため、少しでも障害物がないほうが安全だと判断し、自宅近くの駐車場に戻りました。今、この場所にいて後悔しないのか？もっと安全な場所はないか？という気持ちのまま、大切な情報とデマ情報を周りの方々と交換しながら、外で朝を迎えました。その後、3日間だけ車中泊しましたが、安眠

できる場所や環境のありがたさを改めて実感しました。

地震後、自宅近辺では停電が2日、ガスはプロパンだったため早々に復旧できました。水の復旧には時間を要しましたが、近隣の方が井戸水を提供していたため、不便さはあるものの、すごく助けられました。ガスで温めたお湯を浴びたときは、心からホッと、幸せでした。

前震発生後から周りの方々よりたくさんの情報をいただきましたが、特にLINE上での情報量は膨大でした。物資の支給場所、病院の開院時間、東北で被災された方からのアドバイスなど、混乱しましたが大変ありがたかったです。自分自身に関係なくてもすぐに拡散していました。なかでも熊本県柔道整復師会で作っているグループLINE上での安否確認や情報は、今振り返ってみても迅速ですごく心強かったです。メールや電話でも今まで経験したことがないくらい連絡がありましたが、返答が雑になってしまったのではないかと今更ながら後悔してしまいます。

熊本市南区にある当院は、自宅から1kmほどしか離れていませんが、液状化による地盤沈下、隆起、地割れ、大量の噴砂が発生し、道路は水浸しで、被



駐車場に地割れ

害状況は一変し別世界のような感じでした。ここは約400年前には河川が通っていたため幅50～100m、5 kmの距離で帯状の液状化現象が起こったと新聞に記載されていました。

当院は外観こそ維持していますが、駐車場は地盤沈下で段差ができ、コンパネで応急処置しています。院内にいたっては床が7度ほど傾き、ストッパーをかけないと車輪の付いた医療機器等がコロコロと転がっていつってしまうようになりました。液状化の影響で水道管が所々で破裂していたため、ライフラインでも水の復旧にはかなりの時間を要し、不便な生活が続きました。水の配給、井戸水で生活はできていましたが、特に当たり前に流していたトイレに苦戦しました。現在は通常施術に戻り、院内の傾きを直してくれる業者も見つかりました。

液状化によって家が傾き、避難所生活や引っ越し

を余儀なくされる方が、知っているだけでも多数いらっしゃいます。同じ道沿いで閉店のお知らせを見ると、悲しくもなります。施術中や救護活動中は気になりませんが“患者減少はこの土地のせい”だと時間が空いてしまうと、つい嫌なことを考えてしまいます。しかし、復旧・復興に向けて液状化の専門家に依頼し、説明会や話し合いの場を設けている方など住民の不安を少しでも解消するようたくさんの方が動いているのも知っています。自分自身も震災直後から今現在も周りの方々にお世話になりっぱなしです。

脆弱な地盤への不安や、地域の人口減少が進み、今後もこの場所で続けていけるだろうか？という不安は常に付きまといますが、地域復興の一助になるよう、できることをやっていこうと考え臨床活動をしています。